

寛 忠 治 展

Kakehi Chuji

1998年4月25日[土]-5月17日[日]

刈谷市美術館

開館時間=午前9時-午後5時(入館は午後4時30分まで)

愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
tel.0566-23-1636

但し、金・土曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

交通案内=JR・名鉄三河線[刈谷駅]下車、
南口から徒歩10分

休館日=4月27日[月]、30日[木]、5月6日[水]、7日[木]、11日[月]

初日開館=午前11時

主催=刈谷市、刈谷市教育委員会、刈谷市美術館、朝日新聞社 後援=愛知県教育委員会

入場料=一般500円(300円) 学生300円(100円) ()内は前売り料金及び20名以上の団体料金



「母の像」1928年



「池下風景」1932年



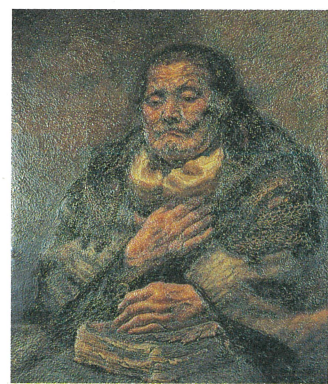
「裸体習作」1938年 愛知県美術館蔵



「横顔」1940年 愛知県美術館蔵



「ボニー3」1987年



「母の像」1930-40年



「あざみ2」1994年

笥忠治展 Kakehi Chuji

今年90歳を迎える笥忠治は、70余年にわたり独自の絵画世界を展開しながら、今までほとんど作品を発表することがありませんでした。今回の「笥忠治展」は、待ち望まれた初の全貌展です。

笥忠治は、明治41年愛知県一宮市に生まれました。幼い頃、名古屋に転居し、以来今日まで当地に在住しています。高等小学校2年生の時父親を亡くし、厳しい家庭環境のなかで画家を志しました。卒業後、愛知県測候所(現・名古屋地方气象台)に勤めはじめ、16歳の頃すでに帝展の若手作家として活躍していた松下春雄と出会い、サンサンオンの美術研究所に通うようになります。しかし、自分の求める方向性との違いを感じた笥は、翌年には中部画壇の先駆者のひとりである鈴木不知の研究所に移り、そこで目にした画集を通じてレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロ、デューラーといった画家たちの仕事に大きな影響を受けました。不知の研究所を去った後は、数回公募展に出品しますが、現在まで独学ともいえる画道をひたむきに歩んできました。

初期から描き続けている自画像は、インクや木炭、墨などで描かれ、自らの内面までもえぐり出すように表現されています。その膨大な作品群には、素描と本絵という概念をはるかに越えた真の力がみなぎり、対峙する者を圧倒的な迫力で見据えます。また、10年の歳月をかけた大作、母の像は、絵の具の盛り上がりで厚さが数センチにもおよぶなど、ひたすら制作に没頭する姿勢はまさに生来の画人そのものといえるでしょう。

この展覧会は、笥忠治の初期から今日までの画業のあゆみを自画像、肖像、風景、猫、静物などの代表的な作品約100点によってご紹介します。孤高の画家・笥忠治の芸術世界をご清鑑ください。

美術講演会 [笥忠治の芸術]

4月29日(水) 午後2時から

講師=木本文平氏(愛知県美術館主任学芸員)

会場=美術館研修室(聴講無料)要整理券

(定員70名)※整理券は4/18(土)

から美術館事務室にてお渡します。

刈谷市美術館

◎所在地=愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
〒448-0852 tel.0566-23-1636

◎交通案内=JR・名鉄三河線[刈谷駅]下車、
南口から徒歩10分

◎駐車場=42台収容可能

